



だいじなこと

活動のフィールドでは、けがをしたり体の調子が悪くなっても、すぐに救急車を呼んだり医療機関へ搬送することが困難なため、その場での適切な応急手当が重要となってきます。正しい判断ができなかったために、回復が遅れたり、命を失うということにならないためにも、日頃から正しい救急法を習得しておくことが大切です。

～ 傷病者が発生したら ～

次の点に注意して、応急手当を行います。

① 落ち着く

傷病者も救助者も周囲の人たちも、冷静になりましょう。正しい判断と適切な応急手当を行うためには、まず、気持ちを落ち着かせることが大切です。

② 救助者自身の安全を確保し、二次事故の防止に努める

応急／救命手当を行う時は、まず、救助者自身の安全を確保することから始まります。がけの崩壊や倒木など、二次事故の危険性がある場合は、危険を冒してまで救助するのではなく 119 番通報を優先します。

③ 傷病者を安静に保つ

傷病者を力づけて安心させ、症状の悪化防止とショック症状の防止に努めます。血液や原因となった証拠物を不用意に見せたり、周囲の人たちがいたずらに騒ぎ立てることのないように、不安になるような言動は避け、やじうま等の群集整理を行います。傷病者にとって一番楽な姿勢をとらせ、必要に応じて保温をします。こうした救助者のしっかりした態度が、傷病者にとって大きな心の支えとなります。

